

わたしの聖戦

◎◎女性が働くことについて◎◎ 36

医学博士・医学ジャーナリスト

植田美津江

抗老化時代を迎えて

この連載をはじめに
あたり、最初にマッサ
ジを取り上げた記憶し
ている。

女性も男性なりに仕事
をするようになり、ホテ
ルの部屋でマッサジを
お願いすることが珍しく
なくなったというよう
な内容だったと思う。

あれから3年経つが、
マッサジのみならずリ
ラクゼーションを中心
にした仕事はますます増
えている。健康、癒し、美
容、若返り……これらの
ワードはときに重なり合
い、ときに同じ意味を持
つものとしてとらえられ、
いずれも魅力あるビッグ
ビジネスに発展しつつあ

る。

この種の産業は、はじ
め女性だけがターゲット
であるが、そのうち男性
にも波及し、次第にマー
ケットとして成熟してい
くような気がする。エス
テシカリ、足つぼしかり、
ネイルサロンしかり、で
ある。ネイルは女性だけ
だろうと思いついていた
ら、意外にもちゃんとメ
ンズネイルもあり、そこ
そこ人気があるという。
先日小学生の男の子が
母親に促されて小指だけ
に色をつけていた。嫌々
かと思いきや結構楽しそ
うであったのも少々新鮮
な思いがしたものだ。
ただ健康なだけでは満

足しない。今よりも、実
際年齢よりももっと若々
しく、もっと美しくあり
たいという人々の願望は
日増しに強くなっている。
医学や医療はひとの健康
を扱う分野だが、それを
超えた人間の欲求には対
応できない。現在の医学
はあくまで「病氣」、つ

そのうち男性にも波及し、
次第にマーケットとして……



ミ、たるみを少しでも目
立たなくするため躍起に
なり、長い時間かけてと
つぶり身についた脂肪を
なきものにしようとする。
男性たちは、目に見えて
衰える男性機能にこだわ
り、徐々に面積を広げて
いく地肌とにらめっこし
ている。アンチ・エイジ

まりマイナスの状態を対
象にしているのであって、
現状よりもプラスを欲す
る人々への対応はまた別
の話になる。
抗老化、英語でいえば
アンチ・エイジング。こ
の言葉もかなり耳慣れて
きた。
女性たちは、しわやし

もが経験する
老化現象に立
ち向かい、人々
の生活をより
満足いくもの
にしようと試
みる分野や業
態をいい、こ
れがまた大人
気なのである。
いいじゃない
の健康ならば、というせ
りふは空々しいものにな
りつつある時代になっ
たのだ。
人間のこのような欲望
は誰にも止められないし、
非難もできない。年老い
ていくことがつらいのは、
その現象もさることな
ら、確実に自分は年をと

っていくという事実を受
け入れることである。鏡
に映った自分を背筋を伸
ばして正視できるまでの
葛藤や、からだの動きや
反応そのものが衰えてい
くわが身を自覚すること
が苦痛なのである。

高齢社会に向け、新し
い産業として抗老化ビジ
ネスは着実に伸びていく
のだろうか、それにし
て「抗老」の言葉に引
かかる向きも多い。何や
ら自然に逆らうようなや
ましさが気になる。そこ
で提案。何にせよ、老化
を素直に認めることがす
べてのスタート地点だと
思うと、「抗老」ではな
く「好老」としてはどう
だろう。老いてはじめて
わかる人生の妙味は捨て
がたいものがあるに違
ない。「好老」としたほ
うが、身も心も堂々とし
た自分でいられる気がす
るし、残りの時間を慈し
む余裕が生まれるように
思うがいかだろうか。
イラスト・三浦義雄